

ボランティアによる図書館の活性化について

- 令和5年度からの5年間を計画期間とする「鳥取県立図書館の目指す図書館像」において、「ボランティアの意見を図書館活動に活かせるような仕組づくり」を進めることとした。
- 令和6年度は、県立図書館の新たな魅力の創出や無理のない安定的な事業の継続を図るため、第三者の知見や労力を活用した「ボランティアによる講座・イベント等の企画・運営」を、年間2件を限度として試験的に実施することとした。
- 読書振興や図書館利用につながり、図書館で実施するにふさわしいと認められる企画であること、参加料が原則無料であること等を条件として募集した。

■実施企画①

【講演】 「私たちの「今」と生田長江—小説『火口に立つ。』から—

【講師】 松本 薫 氏

【会場】 鳥取県立図書館2階 大研修室（定員100名で実施）

【展示】 県立図書館の関連図書を併せて展示する。2階通路ギャラリーと講演会場

【日時】 9月29日（日） 午後1時30分～午後3時30分

【目的】 郷土の先人である生田長江については、明治から昭和初期にかけて活躍した人物であるにもかかわらず県民にあまり知られていないため、県民の日の関連イベントとして、南原律という架空の女性が生田長江の生き方に影響を受けながら自立していく姿を描いた、地元作家松本薫氏による小説『火口に立つ。』から生田長江を学ぶイベントを実施し、県民にふるさと鳥取への愛着や誇りを感じてもらうとともに、図書館への来館や郷土資料利用の契機とする。

■実施企画② ※詳細は今後決定

【講演】 宇沢弘文の「社会的共通資本」から学ぶこと（仮題）

【講師】 岩田 直樹 氏

【会場】 鳥取県立図書館2階 大研修室（定員100名で実施）

【展示】 県立図書館の関連図書を併せて展示する。2階通路ギャラリーと講演会場

【日時】 11月24日（日）、又は12月8日（日） 13時30分から

【目的】 鳥取県米子市出身の、かつて「ノーベル経済学賞に最も近い日本人」と言われた偉大な経済学者である宇沢弘文が提唱した「社会的共通資本」論については、これまで多くの研究者が著書、論文などで取り上げて論じてきた。

没後10年を期して、地元研究者として宇沢を初めて取り上げた著書を出版された岩田直樹公立鳥取環境大学特任教授による講演等により、宇沢弘文について分かりやすく学ぶイベントを実施し、鳥取県出身者の顕彰を通じて県民にふるさと鳥取への愛着や誇りを感じてもらうとともに、図書館への来館や郷土資料利用の契機とする。

鳥取県男女共同参画センターよりん彩活動支援事業補助金 [公開講座]

私たちの「今」と生田長江

— 小説『火口に立つ。』から —

開催日時

2024年 9月 29日 (日)

13時30分～15時30分 申し込み不要・無料

開催場所

鳥取県立図書館 大研修室 (2階)
(鳥取市尚徳町 101)

講演者

松本薫氏

松本薫 作家。米子市在住。
おもに鳥取県内の歴史や人物を
テーマにした小説を書いている。
著書に『TATARU』『謀る理兵衛』
『日南X』などがある。
『火口に立つ。』は生田長江をモデル
にした小説で、今年2月発刊。

生田長江

根雨町貝原に生まれる

1882
(明治15)

「文芸評論家」として本格デビュー
東京帝大哲学科卒業
成美女学校教師 (~1908)

1891
(明治24)

亀田藤尾 (江府町大河原に生) と結婚

1906
(明治39)

ニーチェ『ツアラトウストラ』翻訳刊行
『青鞥』創刊を支援

1907
(明治40)

『反響』創刊

1908
(明治41)

『ニイチェ全集第1編』刊行

1909
(明治42)

『資本論第1分冊』刊行

1911
(明治44)

(略)

1914
(大正3)

永眠

1936
(昭和11)

南原律

根雨町根雨に生まれる

米子町に嫁ぐ

男児を産む

離縁、上京して生田家で働く

生田家を出る



主催 「地元作家松本薫の作品を愛読する会」
(問い合わせ先：内田 090-2297-4614)
共催 鳥取県立図書館 (0857-26-8155)